



力を合わせてよりよい奉仕

ライオンズクラブ国際協会

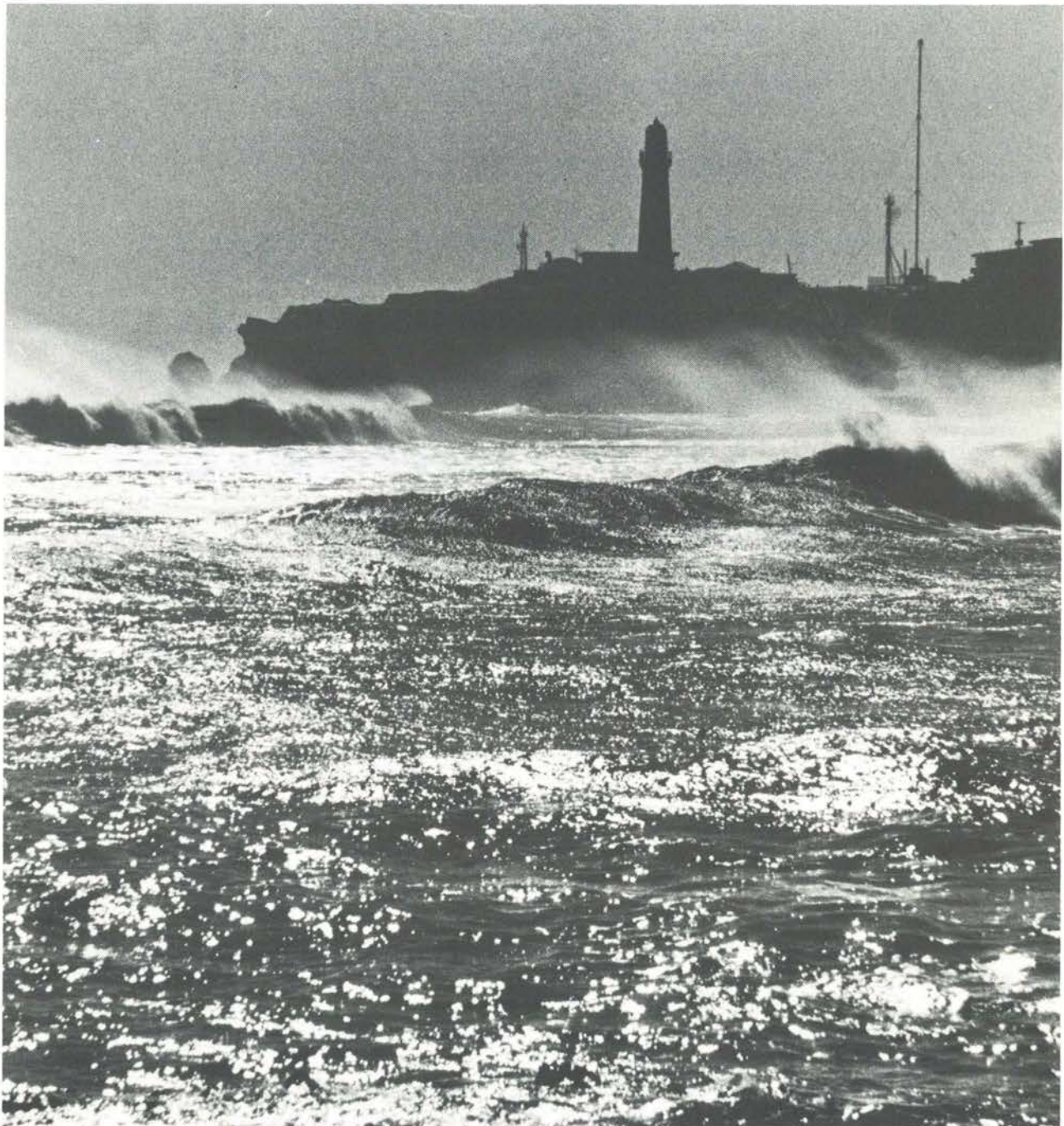
333-C

1985-86

No. 6

地区ニュース

奉仕で結ぼう心のきずな



波 濤

写真提供：銚子ライオンズクラブ



333-C 地区ライオンズ憲章

われわれは、ライオンズクラブ草創の原点にたちかえり、その崇高な精神を信奉し、会員である誇りと自覚をもって、ライオニズム永遠の発展に寄与するため、会員の総意を結集し、ここに地区ライオンズ憲章を制定して、その理想実現に邁進するものである。

1. 単位クラブの尊厳と自主性を尊重しよう。
2. 奉仕の根源は愛であることを確認し心をこめて精進しよう。
3. 友情によって相互理解と強固な団結をはかろう。
4. 組織の簡素合理化と経費の節減につとめよう。
5. グッド・スタンディングとは積極的参加の意欲であることを理解し指導力の開発にはげもう。



御 挨拶

ライオンズクラブ国際協会

333—C地区ガバナー

L 橋 口 一 夫

——任期終了にあたり——

いよいよ地区ニュースも最終版を迎えることになりました。ニュースとしての使命を果すべく、当初の計画に基づきメンバー各位に御届けする事ができました。PR情報委員会、地区ニュース編集委員の献身的な努力に厚く御礼申し上げます。私の任期も余す処僅少になりました。過ぎ去ってみると、この一年があまりにも早く感じられます。浅学非才の身を以って、地区ガバナーとしてメンバー各位と共にライオンズ昂揚の為精進する事ができました。誠に身に余る光栄に存じます。脳裏に去来するものは、公式訪問を始めとするメンバー各位との出逢い、そして汲めども尽きぬ友情の数々が思い出として次から次へと走馬燈の如く止まるところを知りません。私の長い人生に決して忘れぬ充実した一年でありました。本当にありがとうございました。この素晴らしい御縁を何時までも私は感謝しながら大切に参ります。6月15日に第5回キャビネット会議を終りました。第69回国際大会参加への出発を前にして、御別れの言葉を書いております。昨年のダラス大会で、地区運営の最高責任者として地区ガバナーに任命され、成田空港に帰ってきた6月26日を思い出しております。本来奉仕を生命とするライオンズクラブは如何にあるべきかについて、先輩の御指導とメンバー各位の深い御理解御協力をいただきながら、地区運営に全能力と全情熱を傾けつくしえたことを神に感謝し、満ち足りた気持で一杯であります。地区ガバナーを去るに当って、メンバー各位に対する適切な御別れの言葉を見いだすことができません。これからまた色々な形で御指導いただく私であります。最後に新しい時代のライオンズクラブの奉仕活動は如何にあるべきかについて一言申し上げ、御別れの言葉にしたいと存じます。日本ライオンズも35周年を迎え、その基

礎が確立されたのではないかという、私なりの考え方をしております。日本国自体も好むと好まざるとに拘らず、国際舞台においてその主役として役割を受け持つ時代に入って参りました。ライオンズも同様ではないでしょうか。日本ライオンズの発展は期して俟つべきものがあると確信するものであります。我々も国際感覚の上で立って、社会情勢を見極め、ライオンズクラブの努力目標を確立する必要があると思います。私が声を大にして申し上げたい事は心の問題だと思えます。豊かな国程心が失なわれて行くと言われております。日本の現状も然りであります。物で栄えて心で滅びる国にならないと云う保障は誰もできません。青少年の育成を始めとして、我々ライオンズクラブの取組むべき大きな問題ではないでしょうか。そしてライオンズ自体の心の問題も含めて、見直す事の大切さを申し上げ、今後の精進を誓い合いたいと思えます。本当に一年間ありがとうございました。地区内全メンバーの御多幸と御健勝を祈念申し上げ、今後共相変らぬ御交誼の程御願ひ致します。結びに次期平井キャビネットの御発展を御祈り申し上げ御挨拶と致します。



滞つくしの路のなかで

名誉顧問 元地区ガバナー

吉原 稔 人

橋口キャビネットの総決算である第32回年次大会は、神宮寺委員長をはじめとする第4リージョンのホストクラブの皆様の暖かい心に包まれて挙行された。今や銚子の一つのシンボルとなった「滞つくし」の“みお”一船の水路を意味する言葉―は、昔「りょうし町」であった船橋に生まれ、育った私には、懐かしい響きのある言葉である。元気一杯の精力的な行動と、温顔そのままの優しさで、地区内を魅了した橋口ガバナーの功績は、新しい水路、ライオンズであるための貴重な「滞」を、そのお人柄によって私たちの地区にもたらして頂いたことだと思う。そして、その橋口ガバナーを支えた豊福幹事、郷会計をはじめ多くのスタッフの献身に対し、心からの拍手を送りたいと思う。1985―86年度、私たちは素晴らしいキャビネットを持ったことを誇りたい。

特設の大きなホーン型スピーカーから流れる「音」は、独特のふくらみを持って流麗である。深遠な宇宙への叙事詩「2001年・宇宙の旅」のテーマによって開幕された大会のさまざまなイベントのなかで、私が一番好きなものは、C地区始まって以来すっかり定着した冒頭の「入場行進」である。入場するメンバーの顔にも、それを拍手で迎えるメンバーの顔にも、そこには、この一年それぞれの立場で、それぞれ一つの仕事をなし終えた、さまざまな「男」の喜び、満足感に満ちた顔がある。その無償の充足感こそ、そして、それだけが、ライオンズであること存在理由であると、私は思う。だから、私は、何時もそれを眺める度に、なにか熱いものが胸のなかにこみ上げてくる。ライオンズであることの、さわやかな幸福である。



やり終えたこととし残したこと

地区運営特別委員長

池澤 稔

この一年、即ち1985—86年度は実にめまぐるしい程にいろいろの出来事が起って、稀にみる多事多端の一年であったというべきであろう。

“禍福は糾える縄の如し”

先ず'85年の6月下旬館山北クラブの破綻という事件が持ち上がって、普通の年ならば未だその任でなかった新任の橋口ガバナーにお鉢が廻って来て、大騒ぎをした結果漸くにして赤信号を黄色に変えることができた。そして木村博美新会長の下になんとか形を整えて再建に乗り出したが却ってクラブの面目を一新して結束をかためて立派に立ち直った。

そのショックが余りにも大きかったか、このアクシデントが危機感をたかめてこの一年間に思いがけなくも新しく3クラブの結成をみたことは御同慶に堪えない。

“周年行事オンパレード”

1965年頃の高度成長期のお蔭で当時雨後の筍の如くに新しいクラブが誕生した。その過去の周期がめぐって来て20周年を初めとする周年行事が重なって、21を数えるに至った。

これらの周年行事と他の行事の重なった時を除いて橋口ガバナーは祝福のために東奔西走した。公式訪問から弱少クラブの激励、新クラブを生む見込のあるクラブへの鞭撻のための訪問など個別訪問を加えて、メンバー個々との握手の数では歴代ガバナーの中で一頭地を抜いて多かったのではないか。

“フィーリングこそ大切である”

忙しく張合いのある遍歴ではなかったか。然しこれもガバナー自身の健康の成せる業であって、劇職の人には健康管理が第一の課題である。

人と人との出会いからドラマが始まる。お互いに会って久瀧を叙し手を握り会うことによって親近感が生れ、団結へとつながって行く。

“LCIFは例年の倍に”

周年行事が多かったことが幸いしてLCIFの献金でも市川クラブの10,000弗、船橋クラブの5,000弗という大口寄金を含めて総額では普段の年の倍に当る、800万円を超えるものとなった。

合同アクトこそなかったが周年行事を行ったクラブが競争で式典に、祝宴に金をかけたので合同アクトの余裕のないことが、LCIFへととなって現れたのではないかしら。

“キャビネット事務局は整備された”

この一年事務局の裏方を勤めたが思い通りの仕事をさせて貰った。橋口ガバナーとは妙に馬があったのでアワードの事以外は殆んど好きな様に仕事を進めることができた。一昨年からの懸案であった事務局の就業規則、給与規定退職金規定と文書取扱規定を全部完成させた。後は誰がやっても諸規定を守れば運営に支障はない筈である。

事務の機械化も一応はできた。マイコンがあれば尚更にベターである。

“組織の簡素合理化”

天下に冠たるライオンズ憲章に諷いあげており乍ら、一昨年から逆行して惰性がついて止まらないでいる。

その責の一端は私にもあると思いつつも、一大英断を期待したい。猫の首に鈴をつけるのは誰だ。

1. 名誉顧問が年々増えて行くのは自然の理であるから、キャビネット構成員とする人数を少なくする必要が生じて来る。
2. 副幹事、副会計の3人づつは多すぎる。
3. 地区委員長ももっと兼任を増やして人数を減らした方が良い。特に副委員長はいらぬ。
4. 国際協調、YE委員も増え過ぎた。
5. 諸行事の簡素化

皆、百も承知していながら又来年も繰り返すのか。



一年を顧み乍ら

指導力開発委員長

L 北 総 栄 男

時の経過は実に早いもので、本年度計らずも指導力開発委員長と云う重職を任命されて、あれこれしている内に既に32回地区年次大会も終了し、任期も余す所20日余りとなってしまった。

ジョセフ・L・ロブレスキー国際会長がライオン誌5月号に「優れたリーダーシップ」「それは目的達成には欠かせないもの」と云う表題の中で、冒頭に「リーダーシップは確かに漠然として捕らえどころのないものである」と云われている様に、私にとりましては年初何をしたらよいのか、戸惑いを禁じ得なかった訳です。

とに角、指導力開発委員会に課せられたテーマは、ライオンズ必携にあるとおり、会員に対し指導力の重要性を説き、認識を深めるような企画立案をして実行に移すことが求められていた。

よって今期の指導力開発委員会は、橋口ガバナーの方針に基き種々検討した結果、333-C地区内で活躍する多くの優秀会員から見識・意見を求める事とし、各クラブに応募方を御願い申しあげた所、早速22名の会員の寄稿があり、これを論集として、纏める事が出来た次第です。

この冊子が各リジョン・ゾーンあるいは単一クラブなどが行う指導力開発講習会、或は新会員勉強会等でテキストとして活用され、会員の質が向上し、クラブの活性化がはかられ、退会防止に役立てば指導力開発委員会の目的が果せるものと期待しております。

おわりにこの論集発刊に当り、貴重な意見を寄稿されたライオンズメンバーと、地区ニュースNo.5別冊として、まとめて頂いたPR情報委員会に深く感謝申し上げます。



任期終了に際して

国際協調・YE・LCIF委員長

L 江 畑 耕 作

国際協調、YE、LCIF委員長の要職を受けてから一年が終ろうとしている。YEについては前委員長として引きつづき一年間その運営に参画しなければならないが、任期終了に際し所感の一端を述べてみたい。

言語、風俗、生活、環境、思想、宗教などの過去と現実のすべてを異にするひとびと、殊に若者達を互に交換しあって生活を共にし、相互理解と国際親善の目的を果して帰国させるYEプログラムは、綿密な計画の下に準備、実施、反省の諸問題を年間休みなく行うアクティビティである。その間の金銭、労力両アクトを超えた精神

的な奉仕活動こそ、他のアクトに見られないYEの苦痛であることを身に沁みて感じた。それだけに、これこそLC国際協会ならではの奉仕活動であるという認識と、ライオンズマンとしてはじめて国際協会の一員としてのアクティビティに参加したという満足感を得た。

1961年に僅か8名の派遣生ではじめられた日本のYEプログラムが、25周年を迎えた本年度は派遣生800名、受入生500名を超える一大国際交流活動に迄発展したことは、ライオンズクラブ史上特筆大書されるべき業績であり、今後更に発展することが予想されるの



である。日本のYE活動は西日本を主体とした西高東低型であったが、今日では全国的に平均化される傾向にあり、特に東京国際空港を擁するわが333-C地区においては、YEアクティビティを全クラブが取りあげるべき時期にきていると思う。

今や日本は世界の経済大国に躍進し、従来われわれが行ってきた地域奉仕活動についてどれほどの必要性和社会的価値があるか見直すべき岐路に立たされていると思う。われわれが持てる貴重な時間と労力と金銭は、日本より貧しい国に与えるLCIF、未来につながる青少年育成と国際交流を兼ねたYE活動に向けるべきではなからうか。YE25周年フォーラムにおいて、333-B

地区のパネラーが叫んだ「YEは地獄である。だがわれわれはYEをやる。何故ならライオンズクラブからYEをとったら何も残らないからである。」の言葉を私は忘れることができない。日本が世界の国々から信頼と尊敬を寄せられる真の意味の大国となるためにも、日本のライオンズクラブはLCIFとYE活動を強力に推進しなくてはならないと確信するものである。

最後に献身的な協力を惜しまなかった地区YE委員のライオンズと、YE生の受入れと派遣を担当されたホストクラブ及びホストファミリーの皆さんに心から感謝申しあげます。



また夏が来て

PR情報委員長

青野 虎二

夏は寸余の扇に涼を求め

秋は一葉落ちて思索の窓に寄る

冬は靈峯の白銀に天地の悠久を仰ぎ

この春は憂多く花の下に逝きたる友を悼む

そして再び炎暑に喘えぐ夏とはなりぬ

この一年の歳月は瞬間に過ぎて、今その任を終る、
今日も亦慌しくして輪廻、流転の思いを深くす。

任期を省りみて、PR情報委員長として、会員の皆様に心からお礼を申し上げます。

大勢の先輩諸兄より厚い温情と御指導と豊かな愛情を以った限りない御支援に支えられて今日を迎える事が出来ました。全く感謝の二字に尽きる。多くの玉稿を拝見して、文章を綴りその意を伝える事のむずかしさを必みじみと考えている現在である。

PRとは何ぞや。情報とは何か。数多くの会員諸兄は何を望み、ライオンズマンとして、どうあるべきかを自覚して頂きたい為の私達の仕事が果して参考になったであろうか。

情報の伝達のむずかしさ。氾濫している情報を選択の

上消化して引用するのであるが、その情報を如何に判断したのであろうか？今、十分な情報提供が出来なかった事を反省している。情報は受ける人の判断に意義がある。

判断は情報を如何に理解するかによるものと思う。

地区ニュースについて

我々素人の集りが、この地区ニュースをどうこなしてゆくのか戸惑いと危惧の中で、原稿募集通知から原稿用紙の送付、原稿到着確認、そして整理、内容通読、割付け、ゲラ、校正、再校正、飛び込み原稿の処理、次号廻し、等々。さて出来上ったものは、苦勞の片鱗もなく極めて平凡なものである……。

さて編集委員の須藤Lは寧日なき医業の傍、各位の玉稿を徹夜で整理する作業が一年間、発行の都度何日か続いた事を思う。その熱意と積極的な処理、精力的な御努力に心から敬意を表する次第。過日5号別冊「論集」の事でお宅を訪ねると奥様が「もうすぐ終わりますね……」とおっしゃって、此の短かい一言が言外に関係者の苦勞を慮って余りあるものと感じました。同じ編集委員林Lは地区ニュース原稿の窓口としてこれ亦予定の原稿が如何に円滑に届くか、地区ニュース充実の鍵を握る大切な



点を完全に掌握し、多忙な家業の中で奉仕的な諸公務に就きつつの御努力には頭の下がる思いでした。尚私が今、お礼を申し上げなくてはならない7人の侍がある。それは各リジョンのPR情報委員方である。それぞれの担当地域の状況をつぶさに報告され、緩急自在、臨機応変に、ある時は電話で、ある時は速達便で、それは一切ならず私を助けて下さいました。正に一心同体の感がありました。この素晴らしい方々に奉仕され、私のしあわせな一年が終わりました。7人のPR情報委員の方々がその任を果されたことを明記して、茲に全幅の敬意を捧げます。

数多くの思い出の中に、地区ニュースに盛ることが出来なかったこと（没原稿ではない、原稿は没にしたことはありません）、印刷の関係で若干の時期おくれのこと等、その他謙虚に反省している次第です。年間6回発行する「地区ニュース」の第5号、何とか出来たものと思っている。勿論投稿者各位の熱意と協力によるものであることは言を俟たない。

地区全クラブの会報について、3号にその概況を掲載しましたが、反応のなかった点、残念に思っております。

会報は是非発行し、会員の声を、と期待いたします。本年発行された会報を私の手許まで御恵贈下さいました。その量は今私の机上に10センチ程に綴られてあり

ます。その都度丹念に読みました。心から感謝しております。今後とも益々御精進下さいますようお祈りいたします。

さて第5回キャビネット会議で若干申し上げ、重複いたしますが、2、3申し上げます。それは予算の伴うことですが、現代の日本の印刷技術をもってすれば、格安に現行の「地区ニュース」を白黒でなく、カラー写真でと云う事は、各クラブから送付される写真はすべてカラーであって中に素晴らしいものもあるがその儘採用出来ない。全部とは云わない、文章の間に数枚でもよい。それが出来なければ表紙だけでもカラーにしたい。

次に30P内外であること。大きさについてはライオン誌B5に地区内統一が出来ないものか（クラブ会報も含めて）尚、立て書きも検討して欲しい。等々……。

更に、正確な物差しをあてて広報費の予算化をお願いしたい。今後の充実を切に期待しつつ申しあげます。

最後になりましたが、橋口ガバナーの人柄に魅せられ、キャビネット構成員各位が「ライオンズの誓い」並びに「ライオンズ道徳綱領」「スローガン」通りの実践者に囲まれて、今6月、さわやかな思いの中に一年を終ります。

地区内全会員の皆様、玉稿提供の皆様、衷心より厚く御礼申し上げます。さようなら、お元気で。



夏の夜話 5 題

長期計画リサーチ委員長

L 北村 泰彦

〔第1話〕ある日突然にLCが消滅したとする。あなたは平気でおれるだろうか？自分の死後も世の中何ひとつ不安なく動くことに激しい焦燥を感じる人は多い。為すべきことの余りに多く、為さざりしを憂う心があれば、怠惰の月日を悔むのは人情。

LCが無くても、自分には仕事があり趣味もあって充実しているからと嘯けるのは、熱意イマイチの証。平素は実感に遠くても、一度それを失ったときにその真価を識って悔やまれるもの。縁あってクラブに入り、心うた

れた思いも多かった筈、生涯のバックボーンとして不足ないものと思うが如何？

〔第2話〕たかがライオンズ、されどライオンズ。仕事第一、L第二、それはそうなのだが、併し、次元の違う事を平列に置いて白黒を云う間違いに気がつかない。使い分けと口実を楯に誠意をカモフラージュする輩には次の事実は参考になろう。

それは、欧米社会で神を信じない人はと角眉唾ものとされ、ときには嘘つきと同列にされる事。それは職業や



地位を超えた次元での価値感であり、一例として「フランスで科学者の名簿を見なければ、教会信者の職業別の名簿を見ればよい」とまで言われた故事のことである。

それは、何に携わるにしろ、人間として欠けるものがあるとは信頼を失うというところから、欧米では倫理感と信仰が一体の社会常識であるのに比べ、私達の環境はどうであろうか？ 神道や佛教、キリスト教などを方便に利用はするが、生涯かけてバックボーンとする人が甚だ少ない。

この意味で、人生の空隙を「ライオンズ」が埋めてくれて幸せであるならば、その人にとって「例会」は教会であり寺社であって、会員は教徒壇徒に他ならない。——これでよいではないか。

〔第3話〕あるクラブの幹事、一生懸命でリーダーシップも抜群であるが、ひとつ欠けるところがあるという。それは、ライオンズの心がないのだから聞いた。

よく伺ってみると、この幹事、まことに立派なマンズリーレポートを送り、表彰規定にも通曉して、就任年度のクラブ成績をダントツに導いたのだそうだ。処が多数の年次大会アワードを貰ってもホームクラブ会員はむしろげん顔だったという話。

私のアワード無用論はもっと深いところから発想したつもりであったが、この話と全く無関係ではない。

何が困ると言って、この例のように、制度の枠組を利用して、本旨を忘れてシャカリキに突進するリーダーほど困りものはない。本来悪意はないのだが、善意の組織がこの辺のことを矯める力はまことに頼りないのだから。

〔第4話〕副が司会をして、正幹事が報告、会長は当り障りない挨拶でお茶濁しの例会。CABも例外ではない。

ぞろぞろ副をひきつれてのGOV公訪。司会はZ幹事。この図式は内容空疎で見かけだけ整える形式主義に陥り易く、三百代言の温床となり、ライオンズの自由活達な愉しさに程遠い。何とかならぬかと言いつつながら、引継ぎ踏襲で元のモクアミ。

日本ライオンズは一体どの辺から間違ってきたのだろうか？ 或いはこの国の土壤が本当はデモクラティックな考え方に遠いのかと疑われる程だ。「会長—プレジデントの語源はプレサイド即ち司会するに由来し、例会進行にリーダーシップをとるもの。米国ではクラブ事務局もないし、CAB事務局さえない。即ち、Lこそ手づくりのクラブ……」とする吉原稔人LのL誌リポートを玩味すれば自から病根の所在が判ってくるであろう。

〔第5話〕ライオンズでしばしば顔を合わせる会員。ところがその人、本業は何かしら？……というのは困るのである。

同業の会であるならばこの困惑はおきない。Lのほんとうの面白さは、常にその人の本業あっての、そして夫々の違いのなかでの心の合致を見つけ合うことであろう。

ガキ仲間の同窓会、命かけた戦友会、表芸を超える仲間の同好会、etc.これらに伍して、併しひと味違うLC……まして大多数がほぼ中年の年代で培う友情など矢鱈にはないと思って大切にしようではないか！

ある日突然、LCがなくなったら……と架空の試薬をわが身に投じて心を新たにしたい。



顧 み て

薬害教育・福祉・環境保全委員長

L 石 毛 文 行

委員のいない一匹狼の委員長としてやってきました。巾広い問題なので、何から手をつけてよいか解らず、迷った挙句糖尿病問題と薬害教育に目標をしばって実施しようと思い、青少年健全育成の立場からも、酒、タバコは

成人してからと遵法精神を唱えて参りました。

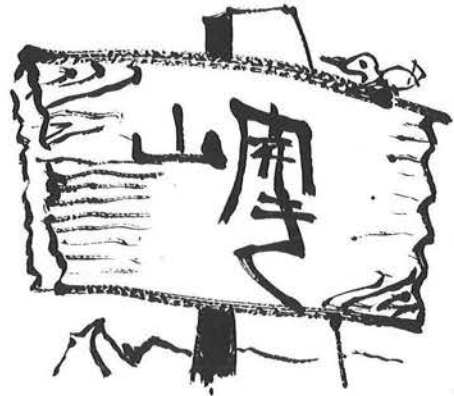
また国際会長の提唱する糖尿病予防に関するキャンペーンに参加し、糖尿病問題をテーマに各クラブの御参加を願ひ、予防について講師の講話によって積極的に啓蒙を



行いました。この講演をビデオテープにしてありますので御利用下さい。

次年度も引き続き糖尿病予防運動をお願いすると共に、委員長の中広い御活躍を期待します。

任期を通じて皆様の温かい御支援に心から感謝申しあげ、各位の御発展を御祈りします。





御 挨拶

ガバナーエレクト L 平 井 勇

(館山LC)

第32回年次大会におきまして、ガバナーエレクトに選任されましたことは、真に身に余る光栄であり、私の生涯忘れ得ぬ感激であります。私に寄せられました各位の暖かい御理解と御支援とに対し、厚く感謝の意を表す次第であります。

さて、333-C地区は複合地区発展の歴史的過程において分割され、単県独立して創建されてから、早五ヶ年の歳月が流れました。この間、歴代のガバナーの方々は血の滲むような努力を尽くされ、その年度のキャビネット構成員もまた献身的な協力を捧げ、一丸となって今日の地区繁栄を築き上げられたわけであります。堅固な基礎と機能的な組織が完成し、その活性化と相俟って着実に伸張を続けている現況であります。正にこれは先輩各

位の辛苦の結晶であり、燦然と輝やく宝珠であり、私共の心の在処であります。これを汚損したり、破疵することは断じて許されません。私は、これを大切に守るだけでなく、更なる磨きをかけて光沢を添え、意義ある年輪を加えて、次代へ継承致したいと、一途に思い極めております。当然の事乍ら、それが私に課せられた最大の使命であると存じます。

もとより浅学菲才の私ではありますが、ライオンズムに対する情熱と意欲とは鬱勃として体内を駆けめぐっていますので、老骨に笞打ち研鑽これつとめ、精魂を傾け体当りで職責を果す決意でございます。

大方各位の格段の御教導の程を、切に御願い申しあげまして、御挨拶に代えさせていただきます。



ガバナーエレクト 平井勇Lの横顔

キャビネット幹事候補 (館山LC)

L 村 松 卓

清和源氏の流れをくむ名門、平井一族の末葉と言われ、房州は勝山藩の家老の孫として明治44年亥年生れの75才である。活達にして清廉潔白、古武士の風格さながらに、ガバナーエレクト平井勇Lは至誠の人である。昭和9年早大政経学部卒、サラリーマンとなって会社役員として活躍。昭和26年より税理士となり、爾来36年間「有名には栄光が伴うが無名には気楽さが伴う」との持論通り、名利を追わず富福を作らず、悠然と庶民を相手に税務相談とその処理を続けてきました。人呼んで「哲人自適先生」と敬慕する所以であります。

趣味は旅、暇を作っては気の向くままに御夫婦で仲よく内外を飛回っておられます。それを絵に描き歌に詠み、旅日記に編むのですが、既に数十冊にも及んでいるとききます。歌舞伎や日本舞踊の観賞は少年時代からのもので、通人の域に達する文化人でもあります。身長157cm 体重50kgの小軀ではありますが、これでも明治大正時代は日本人の標準規格であり、鍛えあげてあるので長持ちしておりますが、大任を果たすためには、一層健康に留意して頑張るつもりだ、と言われます。この人らしい真摯な心意気で頼もしい限りであります。



333—C地区 第32回年次大会

5月11日 於 銚子



年次大会の成功に御礼

年次大会委員長 L 神宮寺 俊彌

ホスト6クラブとキャビネットの情熱と英知を結集した333—C地区第32回年次大会は、5月11日(日)銚子市青少年文化会館と体育館の会場に見事に開花。爽やかな初夏の天候に恵まれ、盛大かつ華やかに催されました。

5月8日、銚子C.Cでの親善ゴルフ大会(参加140名)に始まり、大会当日の登録メンバー1668名、ライオネス105名、レオ50名、来賓招待者33名、その他協力下さった交通指導員、ボーイスカウト、ライオンレディ、郷土芸能保存会等々、2千余名の方々のおかげをもちましてスムーズに乗り切ることができました。

記念講演には、シナリオライター・ジェームス三木氏の『ドラマと人間』を企画しましたが、平易な説得力のある面白い話であったと好評を戴きました。

祝宴会場で「よくやりましたね」「大成功ですね」と何人もの方々に握手を求められた時の感激は、生涯忘れることのできぬものとなるでしょう。

ただただ『ありがとうございました』とお礼を申しあげるばかりでございます。

昨年の年次大会で、「次期は銚子で」と発表した瞬間、

脳裏に使命感と不安感がどっと噴出し、身の引締ったことを思い出します。郷土色豊かな、心温る歓迎を行いたいと、ホストクラブの例会を訪問して御協力を御願いし、或は各部会役員に相談しつつ構想を練り、準備に取り掛かったのですが、その間、問題がもちあがる度毎に色々と御意見、御批判を頂戴しながら、やっと辿り着いた大会でございました。これを成功させた4Rの結末は更に強固になり、御協力下された各位が、ライオンズ人生の何たるかを胸に秘めて、今後の御活動の糧としていただければ幸いです。また、キャビネットが極めて身近かな存在であることを、改めて認識することができた意義深い大会でもございました。

終りに改めて地区全ての皆様の御支援御協力に御礼を申しあげると共に、次期の館山キャビネットの御活躍を祈念いたします。

年次大会スナップあれこれ





年次大会を終えて

年次大会副委員長 銚子LC会長

L 栗橋 昭夫

登録1800余名のメンバーを集めた場内。熱気の溢れる中、ホストクラブの協力のもとに、友愛と奉仕の精神に胸を張り、満員の会場にしばし時の過ぎるのも忘れませんでした。

思えば前年、第31回の茂原大会に大勢で参加してから早一年余り——いろいろなことがありました——。

本年は特に周年行事が多かったので、私達は昨年9月から積極的に各クラブの行事に参加したため、日曜日に家にいるのは皆無の状態でした。大会委員長の神宮寺Lも、さぞ心労の毎日だったろうと推察します。

それにしても1Z・2Zのホストクラブとしての協力

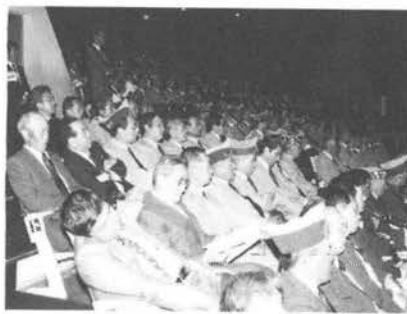
の様は、とても言葉で表現することのできぬ程でした。神崎LC、総武中央LC、多古LC、干潟LCの御協力、旭LC、佐原LC、八日市場LCの親身の御力添え、東庄LC、飯岡LCはメンバーが少ないにもかかわらず、大きな力を貸してくださいました。

ホストクラブおよびメンバーの御協力に、深甚の感謝を捧げるものでございます。

大会のしめくりにみせた橋口ガバナーの満足げな笑顔と、溢れる涙を忘れることができません。

重ねて銚子LC一同と、心からホストクラブの皆様へ御礼を申しあげ、今後の御発展を御祈りいたします。

年次大会スナップあれこれ





年次大会スナップあれこれ





333複合地区32回年次大会

地区ニュース編集委員 林 寛 躬

333複合地区〔333A(新潟・群馬)333B(栃木・茨城)333C(千葉)]第32回年次大会が6月8日宇都宮文化会館に於て9:30分より代議員会、13:00より大会が実施された。前日の7日には記念ゴルフ大会、前夜祭等の行事があり参加者を楽しませてくれた。当日は雨も止み梅雨を目前にした天候としては珍しいすばらしい青空が拡がり大会を祝福するかの様であった。

- A地区定数 579名中58%の335名
- B地区定数 562名中64%の362名
- C地区定数 365名中60%の222名
- 合計 1,506名中61%の919名

の代議員参加のうち9:30分開会が宣せられた。

堤大会議長挨拶に立ち「最近複合地区年次大会を軽視する風潮があるが此の大会は独立性を持った最高の決議機関である事を認識して欲しい。又もともとこの5県は一つの地区であった事を思い旧交を温め楽しい集い、忌憚のない意見議論を出し合う複合地区発展への集いでもある」と力説、9:50分一旦休会が宣せられ10:06分科会に分かれ、それぞれの研究テーマに従いが慎重活発な意見発表が実施された。11:30再開宣言、各委員会、分科会より下記の報告がされた。

○国際理事立候補者推薦委員会

1986~1988年度日本選出国際理事候補者として繁富一雄L(札幌中央)を推薦する。

○決議委員会

△複合地区会則改正

現行の90円を120円に改正する。

△第32回年次大会テーマは国際会長テーマ「力をあわせてよりよい奉仕」とする。

△第33回年次大会開催地

茨城県としホストクラブは333B地区2R

1Z 6クラブとする。(水戸、水戸葵、水戸西、水戸東、水戸南、水戸北各LC)

△第22回全国身体障害者スポーツ大会(1986.10.25~26山梨県)に協力する為会員1名につき100円のを拠出する。

以上の決議承認の上12:00閉会が宣せられた。

13:00より大会が開催されゴング、国歌斉唱に続き物故ライオン〔本年度A地区17名(2月現在)B地区20名(4月現在)C地区26名(3月現在)に黙禱並びに献眼者顕彰として下記の三首が献歌朗詠された。

- さしのぼる朝日の如く意気もえて、
ライオンズムの君を尊ぶ。
- 去りてより第二の人生いまここに、
開けし人の喜びをほぐ。
- 君により光を得たるその人と、
永久の安らぎ深く祈らん。

堤大会会長式辞に続きガバナー協議会議長として年次報告(主たる点)

A国際レベルに関する事

1. 第66回国際年次大会は1985年6月19日~22日まで米国ダラス市に於て開催され、国際会長にロブレスキーL(アメリカ)が就任し日本からの国際理事として仁井関武司L(呉)が当選、尚第67回ニューオリンズ大会で繁富一雄L(札幌中央)が立候補される。
2. 第24回東洋、東南アジアフォーラム、1985年11月15日~17日まで308地区シンガポールで開催された(日本2497名、333MD170名参加)第25回は1986(10月末~11月上旬の予定)にソウルで開催される。多数の登録を期待する。

B全日本レベルに関する事項

○ガバナー協議会議長連絡会議

日本8MDの議長連絡会議が約2ヶ月に1回今年



度中7回国際理事を交えて全国レベルの問題並びにMD委員長連絡会議の答申などについて討議された。

○科学万博つくば“85”

全国LCの善意による協力金11,800万円で会場内に障害者及びお年寄の休憩、交歓の場となるセンターの建設と車椅子100台を常備、昨年3月中旬～9月中旬迄180日の長丁場を鴻巣委員長始めB地区のメンバーの方々が献身的な労力奉仕をされた。深甚なる敬意を表したい。尚剰余金3,502,982円は333MD緊急援助資金に繰り入れる。

○日本ライオンズ合理化委員会

333MDより選出された渡辺惇委員長Lのご活躍に対し敬意を表したい(「日本ライオンズ合理化について」の小冊子参照)

○神戸ユニバーシャード“85”

昨年8月24～9月4日の12日間神戸市に於て開催され、各クラブから計35,336,450円のご協力を戴き、大会参加106ヶ国のうちGNPの低い開発途上国の選手42名(14ヶ国)を招待する事が出来た。

○第21回国際身体障害者スポーツ大会

昨年11月2～3日鳥取県に於て開催され、全国LCからの協力金14,735,800円は大会会長に贈呈された。

C複合地区レベルに関する事項

○代表的ACT

昨年8月12日に発生した日航ジャンボ機墜落にともなう520名死亡という大惨事に際し地元333A7R3Z多野藤岡LC、LSCのメンバーの皆様が長く続いた真夏日の中、仕事も家事も犠牲にして、遺族と救護隊の為し続けた。頭の下る思いで一杯である。

○YE活動について

国際化時代を迎えてYE活動は年々活発となっている。然しその半面色々の問題点も山積みしている、これらの諸問題解決に林隆而委員長L(千葉中央)始め委員の方々は情熱をもって努力され優秀な成績をあげられた事に敬意を表したい。

続いて代議員会結果報告、来賓(副知事)祝辞、各地区ガバナーエレクトの挨拶、本年度顕著な貢献者に感謝状並びに記念品贈呈の後、来年水戸での再会を約し広い文化会館に高らかなロアーを響かせ終幕となる。

ホストクラブの皆様本当にご苦労様でした。最後に分科会でも問題になり大会会長も力説した準地区大会、複合地区大会を始め合理化(無駄を省き、足らざるを補い猶ライオンズムの道から外れない)の諸問題をメンバーそれぞれ自分達の問題として日夜研究して欲しいと願いつつ家路につく。





1985～1986年度

第5回キャビネット会議資料議事録(抜粋)

1986. 6. 15 於 ペリエホール (千葉駅ビル)

幹 事 報 告

キャビネット幹事 L 豊 福 和 磨

今年度最後のキャビネット会議に当りガバナー公式訪問を始めとして、多数の周年行事訪問も無事終了出来、又しめくりである5月11日(日)第32回年次大会には、多数のメンバーの御参加を得て、盛大に開催されました事は、キャビネット構成員の皆様の御協力と御支援のお蔭と存じ幹事として、厚く御礼申し上げます。

1. クラブ数および会員数の推移

	クラブ数	会員数	入 会	退 会
1985年7月1日	78	3,552		
1986年4月30日	79	3,637	319	234
増 △減	1	85 死亡(21)		

ライオネスクラブ, レオクラブの動静

	ライオネスクラブ		レオクラブ	
	クラブ数	会員数	クラブ数	会員数
1985年7月1日	7	148	5	110
1986年4月30日	7	148	4	80
増 △減			△1	△30



2. 奉仕活動

1985年7月1日～1986年4月30日累計

金 銭 A C T	1,727 件	217,770,529 円	1人当たり 59,876 円
労 力 A C T	1,181 件	96,518.2 時間	
献 血	172 回	5,570,300 C C	
献 眼 登 録		860 名	
献 眼		1 名	
L C I F		7,783,743 円	

3. エクステンション

栗源ライオンズクラブの結成に続き、浦安ライオンズクラブのスポンサーにより、浦安シーサイドライオンズクラブが6月14日(土)に結成されます。

尚光町ライオンズクラブの結成式も6月29日(日)に予定されております。大変心強く感じ、改めて感謝の意を表します。

4. 国際協調 Y E 関係

夏期派遣生 39 名

〃 受入 22 名 ホスト家庭 (51)

最後になりましたが、皆様方の今後の御健康と御多幸をお祈り申し上げると共に、次年度館山キャビネットの御活躍と成功を心よりお祈り申し上げます。



優待会員と終身会員について

地区運営特別委員長 L 池 澤 稔

結成以来15年以上を経たクラブが増加するのと同時に会員の老齢化が進むに従って、優待会員又は終身会員の増加して行くことは必然的な過程である。

その数が一体どうなっているのか、それらの会員に対するクラブの取扱いはどうなっているのか。それも差迫った関心事ではないかしら。

1. 優待会員と終身会員の会則上の相違点

在籍年数	優 待 会 員		終 身 会 員		
	15 年		25 年	15 年	20 年
理由, 資格	病気, 虚弱, 老齢その他		功績著しき者	70才以上	国際協会役員 経験者
手続き	本人の申出によって正会員たることを放棄		①本クラブの推薦 ②200ドルの国際会費を納入 ③国際理事会の承認		
会費	クラブが課する会費		適当な額の会費を課す		
権利, 義務	投票権およびその他の特権を持つがクラブ, 地区あるいは国際協会の役員にはなれない		正会員として義務を遂行している限りすべての特権を持つ		

適用の会則は1983-84年版以降の必携の国際会則第3条会員の9項, およびクラブ会則標準版第3条3項(4)および(5)による。

2. C地区における各クラブの状況

(1986年4月末現在)

リジョン別	クラブ名	優 待 会 員				終 身 会 員			
		該当者数	会費	例 会 出席状況	処 遇	該当者数	会費	例 会 出席状況	処 遇
1	市 川	4	運営費 食費 1/2 0	20%	連絡	1	正会員と同額 国際会費除く	100%	理 事
"	市 川 東	5	20,000	特別例会 50%		0			
"	松 戸	1	運営費 1/2	なし		0			
"	船 橋 東	0				1	国際会費を除く 同額	100%	
3	成 田	0	60,000			0	国際会費のみ		



リジョ ン別	クラブ名	優 待 会 員				終 身 会 員			
		該当者数	会 費	例 出席状 況	会 処 遇	該当者数	会 費	例 出席状 況	会 処 遇
3	千 葉	2	30,000			0			
"	千 葉 中 央	1	48,650			0			
"	市 原	0				1	10,000	病気の ため 0%	
"	千葉エコー	1	30,000	特別例会の み	委員会所 属なし				
4	銚 子	1	50%	0		1	運営費 80%	100%	
"	佐 原	8	50%	50%	内規 文化	2	正会員の20%	50%	
"	東 庄	4	30%	例会出席の 都度食費		0			
"	旭	6	48,000	月1回位		0			
"	飯 岡	1	内規なし	80%		0			
5	木 更 津	1	20,000	45%		0			
"	君 津	2	30,000	殆んど 出席しない		0			
6	館 山	0				1	34,000	療養中	
7	上総一の宮	0				1	100%	免 除	
計		37				8			

3. 内規について

優待会員の内規について、今回報告いただいた佐原クラブのみならず各クラブとも整備されていることと思うが成文化されていないクラブにおかれては幹事、会計必携（1986-87年版）47頁および48頁にそれぞれの内規の一例が示されているのを参考として成文化、整備していただきたい。

優待会員、終身会員共にこれから漸次増加の一途を辿るものと思料されるので現時点において該当者のないクラブにおかれても将来を慮って対処して欲しいものである。



地区行事予定表

1986年6月1日現在

月	日	曜	記 事	備 考
6	1	土	次期構成員研修会	千葉聖賢堂
	7	土	複合地区大会前夜祭	宇都宮グランドホテル
	8	日	MD 333 年次大会	宇都宮文化会館
	14	土	浦安シーサイドクラブ結成会	
	15	日	第5回キャビネット会議	千葉ペリエホール
	21	土	ライオネスクラブ新旧3役連絡会議	
	22	日	栗源ライオンズクラブチャーターナイト	栗源町海洋センター
	29	〃	光クラブ結成会	
	〃	〃	YE受入家庭オリエンテーション, OB会議	千葉ペリエホール
	〃	〃	YE派遣生オリエンテーション	
	〃	〃	YE派遣生壮行会	



財団法人千葉アイバンク協会

アイバンクについては従来より度々申しあげて参りましたが、年度末を迎え、経過等につき重複する点もありますがお礼を兼ねて簡単に御報告申し上げます。

財団法人千葉県アイバンク協会は、前地区ガバナー秋場寛氏が就任早々設立を提唱し、昭和60年4月1日付千葉県知事の認可を受け、同年5月27日、厚生省の『眼球提供及びあっせん業』の許可を得て事業活動に入りました。財団の基金は333-C地区ライオンズクラブの絶大な御支援を頂き、誠にありがとうございました。又献眼登録もライオンズメンバー及びライオネスメンバー、並びに其の御家族の方々の御協力により、着々登録業務を進めております。献眼者も3月31日迄に県内で8名の尊い奉仕を頂いておりますが、是等の御家庭にはアイバンク協会理事長の感謝状と、厚生大臣の感謝状を申請、霊前にお届けしてあります。

初年度の事業としては献眼登録の募集と相俟って、県内全般に向けてのPRと諸種の印刷物の調整、或は摘出協力病院に対する器材及び薬品等の配布に相当額の経費も必要とされ、今後の運営につきましても地区内各クラブの御支援をお願いする外に、地域の個人、或は法人の後援会員の募集等も各クラブにお骨折り頂きたく、アイバンクは全国的に40を数えておりますが、殆んどがライオンズクラブが設立して其の後の維持に当たっているようですので、今後共関係者の御協力を切にお願い申し上げる次第でございます。

1年間にライオンズクラブ及びその他の方々から引継ぎまたは御寄附頂いた金額は¥6,438,170一で支出の合計額は¥4,656,184一でございます。

事務局

吉野正三

4月1日からの寄金を下記の通り報告申し上げます。

千葉銀行小さな親切運動支部様	¥ 100,000	後援会
〃 常務 鈴木彰次様	10,000	〃
市原南 LC	100,000	
下総中山 LC	26,000	
飯岡 LC	44,000	
東金 LC	50,000	
八千代 LC	50,000	
浦安 LC	36,000	
大栄 LC	20,000	
君津 LC	20,000	
山田町 LC 林 薫様	20,000	
君津中央 LC	20,000	
上総 LC	20,000	
船橋京葉 LC	16,000	
沼南 LC	100,000	
吉田政蔵様	10,000	
千葉ポート LC	150,000	
松戸中央 LC	20,000	
柏グリーン LC	20,000	
千葉エコー LC	100,000	
我孫子 LC	200,000	
松戸 LC	160,000	

(6月10日現在 計 1,292,000)

其他小口後援分、個人分も ¥ 15,000あります。

追伸： 実際に献眼申込者があった場合の処理について困惑しておられるメンバーやクラブがあると聞き及んでおりますので、近日中にメンバー全員に渡るようにパンフレットをお届けする予定にしています。



任期を通して

2 R DDG

L 中村清成

新緑が日増しに濃くなり、その中へ春が溶けていった。風と光に初夏の訪れが舞う。絶好の季節に、鋭意励んだ一年間の集約と友情の交歓の中に年次大会は終わった。

与えられた任期を振り返ってみると、当初の意欲とは裏腹に、未消化の部分が数多く残ってしまった。それなりの努力はしてみたものの意欲は空転し、残滓が心の底に淀んでいるのも確か。ライオンズという組織の中では純粹さは時に虚影として映る。人間集団ではそれは当然かもしれないが、然しライオンズクラブの理念とはおよそかけはなれたものであろう。

個人が奉仕への夢をライオンズクラブという組織に託し燃焼させる。それがクラブに対する意欲の原動力である。ゆとりある体制や組織の簡素化・省力化を計り、ライオンズ精神の知と心の問題を改めて考慮すべき時期だと思ふ。

本年度は周年行事が重なったが、各クラブがこれに寄せる努力は大変なものであり、皆素晴らしいものであった。しかし橋口ガバナーには、これらの行事に参加される時間の調整に苦慮されたことと思う。地区全メンバーに隔てなく深い思いやりを示してくださった、律義な、誠実の塊のような橋口ガバナーの数々の行為に、深く心打たれたものである。

また、習志野LCを公式訪問したとき、元ガバナー藤田定男Lがテーマーとして受付や雑務に懸命に働いておられました。主賓として出席した私は、役目とはいえず上座に席するに面映い心境でした。謙虚さとは積上げられた内容の豊かさを秘めて尽くすことなのだ、藤田元ガバナーがホームクラブに協力する姿に多く感ずるものがありました。



クラブ運営について

3 R DDG

L 矢田常吉

ライオンズクラブが戦後わが国に芽生えてから34年。今年度は周年行事を行ったクラブが当地区ですら20クラブにも達し、今後もこの傾向が続くと思われる。誠に結構なことだと思うが、一面、退会者もかなりの数で、経験年数の低い会員、或は年令の若い会員が増加した結果、クラブに対する理解度、認識度も多様性を持ってきた。また会員は異なる業種の経営代表者の集りであるのだが、これまた変化がみられる。時代も進展変化した。ライオンズクラブにおいても最近活性化、発原点へ軌

道修正をしようとの反省、クラブの新しいあり方、指導力開発などが強く叫ばれている。

先に述べたように会員の構成は年と共に異ってきており、思想や信条も個性豊かで極めてバラエティーに富んでいる。しかし「ライオンズクラブの目的」のために集まった人々だという共通点がある。クラブの運営はクラブの目的や趣旨、規則や慣習、歴史や伝統に忠実でなければならない。そうでないと年月の過程において不協和音が発生し、入会してきた会員に失望を与えることにな



りかねない。橋口ガバナーが年度方針の中に言われているような日常の運営のあり方が肝要だと思う。

ライオンズクラブは、古い日本の風土的感觉には多少馴染まない点もあるが、すこぶるデモクラティックな運営を行う団体だと思う。そこを認識して運営すれば、ラ

イオンズクラブの良さが解り、真価が発揮されるものであろう。他の団体との運営の相違点をいろいろと考え、よく認識すれば自ずからクラブの存在が理解され、メンバーは限りなくクラブに対する愛着とクラブ員たる矜持をもつと思う。



DDGの任期を終るに当って

4 R DDG

石毛忠雄

総武中央LCの初代会長を勤め、ZCを経験し、その後クラブ幹事をやらせてもらった。それからは職業に忙しく、ライオンズマンとしてはあまり積極性も無く、クラブの決定に従い行動している程度であった。それが、前年度の終り近く、4R・2ZのZC林薫Lの強いご推薦があり、会長伊藤斉紀Lをはじめ多数のクラブ員の波状的な説得攻勢を受ける羽目になり、これ以上断ると人間関係がこわれる程になってしまい、やむなくDDG就任を承知してしまった。そしてPR委員には、当クラブの椎名英夫Lになってもらった。この人事は大成功で、彼はPR委員の役をこなしながら、DDG事務も完璧に遂行してくれた。もちろん、他のリジョンのPR委員さんもそれぞれ立派に任務を果されているが、特に椎名英夫Lの実績は333-C地区の役員の方々が異議なく認めてくれると思う。

さて、井の中の蛙が大川へ泳ぎ出して、色々な事を感じ、勉強させていただきたいが、そのいくつかを述べてみたい。

DDGの職務については、必携を読んでもピンとこなかった。そこへ、当時の4R DDG石毛文行LとPR委員林寛躬Lに前年度の書類綴一式を見せていただき本当に助かった。早速コピーをとり、年間予定表を作った。ところが早速大失敗。DDGの公式訪問は「年間1回以上」なのに2回訪問の予定にしたり、第1回のキャビネット会議で地区ガバナーの方針を聞いてから公式訪問を始めるべきなのに、キャビネット会議開催前に訪問する予定を立てたりしてしまった。あわてて訂正したものであ

る。

リジョン運営のノウハウは、文書の形でキチンと引継がれなくてはならないであろう。キャビネット会議でも、何人ものZCが、「どんな事をするのが判るのに半年かかった」等と発言しておられたが、どのリジョン、どのゾーンでも、その継続性の確保に留意して、次任者が能率よく活動できるようにせねばならぬと思う。何しろライオンズクラブの役職は一年限り。皆、新入生のままで卒業して行くのだから。

地区ガバナーやクラブ会長には「前」という肩書きと待遇があるが、DDG、ZCは、ただ「前年度の」DDG、ZCというだけであるのが現状だ。そこで、今年度は任期半ば頃、前役員方と会合を持ち、現況を報告したり、ご助言をいただいたりして、リジョンやゾーンの継続性の確立を試みた。また、元役員によるリジョン顧問会も作りたかったのだが、4R歴代役員一覧表の作成はできたが、顧問会の結成までは力が及ばなかったのは残念である。

本年度はクラブの周年行事が集中したこともあり日程の調整に苦勞した。5年後にまた周年行事ブームがやって来る。参加は、時間的・経済的に大変なことである。何とかならないだろうか。キャビネットの苦勞にはつくづく同情したものである。

地区ガバナーが初めて4Rから誕生した年にDDGをやらせていただき、名誉なことである。更に思いもかけず4R内に2つも新クラブが結成される事になり、滅多に無い幸運を喜んでいる次第である。栗源クラブは多古



の、光クラブは総武中央がスポンサーであるが、それをなしとげた人達の努力には、つくづく頭がさがる。新生の2つのクラブの順調な発展を祈るものである。

年間行事の2、3を実行できず、4Rのゾーン増加案も実現できなかったが、全体の流れは大体順調であった様に感じているが、果してどうであったらうか。キャビネットのご指導の他、第1・第2ZC、ゾーン幹事、Y

E委員、4R全クラブの会員各位の暖かいご協力により、DDGとして少しも嫌な思いをする事なく、忙しくはあっても楽しく勤めさせていただいた。あらためて皆様にお礼を申しあげたい。また、椎名英夫PR委員は光クラブに移籍することになったが、新天地での一層のご活躍を期待するものである。



任期を終るにあたって

5 R DDG

L 茂田正巳

委員会活動とDDG・ZCの関連について：－

85年7月20日YEサマーキャンプが富津で行われ、DDG、ZC、情報委員の4名そろって出席し、ガバナーに敬意を表す事も出来た。3月25日レオ春期研修会で銚子にお伺いした時、4RのDDG始め各クラブ会長が全員出席されて歓迎の意を表された。また4月12日ライオネスフォーラム打合せ会が木更津にあった時、我々4名も参加した。行事予定を見れば分かる事であるが、招待状がないと、つい自分のリジョン内で委員会活動があり、ガバナーがおいでになっても、つい気がつかず失礼する事が今まで多かったが、今年はまことに円滑に行われて気持が良かった。

ACTについて：－

11月7日ロブレスキー国際会長の公式訪問が新高輪プリンスホテルで行われた時も、15日の東南アジアフォーラムの時も、国際会長はLCIF拠出金の必要性を熱心に説かれた。国際会長といっしょに写真を写した人から10ドルのドネーションをもらう企てが即興的に行われた。飢餓に悩む人々に対する我々の責任が囁かれた。欧米の人々は富の蓄積の寡多は勿論あると思われるが日常生活は豊かで、最低生活者でも生活をエンジョイしている。東南アジアは、貧富の差が大きすぎる。ましてアフリカには飢餓に瀕した所がある。これは政治的にも人道的にも、考えなければならない国際的な問題である。

そんな空気が二回の会合の中に流れた。献血のように、チャリティゴルフのように、飢餓や災害に対するACT意識が一般に普及する事がのぞまれる。

青少年健全育成基金について：－

5Rでは基金の蓄積をつづけてきたが、現在1200万円近くになった。今年は地域内14校の高校生を対象にYEに2名出す事になり6名の応募者を得た。近く2名にしぼりたいと考えている。初めてのこゝろみなのでCABの御指導と御配慮を願っている。

ふれあいについて：－

私の道楽は旅行で、時々海外にも出かける。一度一緒になった人に何かの機会におめにかゝると兄弟にあった様な気がする。大変懐かしいものである。ライオンズクラブでも然り。B地区時代にはCAB副会計を務めさせて戴いたし、複合地区の会計も仰せつかったが、舞台裏の仕事であり、あまり多くの人にお会いしたわけではないが、それでも時々お目にかゝる機会があると非常に懐かしく、会う事が楽しみである。此度は身分不相応にも陽のあたる役職をおゝせつかって多くの人々におめにかゝった。そしてガバナーのお人柄によって大変円満な楽しい一年を過ぎて戴いた。実にありがたい一年であった。

皆様に心からお礼申し上げます。



任期を終え御挨拶

6 R DDG

L 小田喜 潔

橋口ガバナー、豊福幹事はじめ皆様様の御指導を戴きまことにありがとうございました。

私なりにベストをつくして頑張ったつもり的一年でしたが、御期待に沿えぬところも多々あったこと、思います。

就任当初からの念願でありました6 Rから次期ガバナー

推薦の件につきましては、第1回リジョン会議で満場一致で御推薦戴いた館山LCの平井勇Lが、第3回キャピネット会議でガバナー候補者として紹介されましたのは、生涯忘れることのできない程の喜びでした。

皆様の御支援、御協力に厚く御礼申し上げます。



「人」様 ざ ま

7 R DDG

L 土屋 舜

7 RのDDGを委嘱されて一年、リジョン内クラブの例会を訪問し、或はブラザークラブの周年行事に列席させて頂き、地域に密着した奉仕と意義あるアクティビティを拝見して感動しました。

個々のライオンは夫々の職場においてトップの地位にあって立派な業績を挙げておられるわけですが、習慣？性質？或は癖でしょうか、色々あって面白いと思います。

無論次の例は善悪に関係なく、夫々の事業を成功させた原因ではなかろうかと思えます。

- 1) 卒先垂範型の人
- 2) 誠実な人
- 3) 几帳面な人
- 4) 気くばりの人
- 5) おおらかな人
- 6) 背伸びの好きな人
- 7) はったりの強い人
- 8) 気位の高い人

9) 蛮カラな人

10) ハイカラな人

みんな地域のリーダーであるのを見ると、これらは良い方に働いて成功しているものと考えられます。

然しながらライオンズマンたる者、根本的にはライオンズのスローガンとモットーを基礎として活動したいものです。

自由、知性即ち一般社会通念に基づく常識と礼節を遵守しながら地域社会に奉仕をし平和で住みよい世界の創造に貢献すべきでしょう。



ク ラ ブ ラ イ フ

WIKIKI-LC との友好提携その後

地区ニュース5号で発表したWIKIKI-LCとの提携は大変好評で、その後のフォローも順調に進行している事を報告します。クラブ員間で個々にレター交換を行っています。小生もRON会長へ礼状と記念写真を発送したところ、RON会長やMr.KERWINから近況を知らせて来ました。

RON会長は、奥様の代筆で（今回は記さなかったのですが、RON会長は全盲のため夫人がお世話されているのです。クラブでの活躍もクラブ全員が手を取って協力しています。）

これを見てもこのクラブの素晴しさが、おわかりになるでしょう。我々のクラブでは、とかく人間関係に問題が多く、見習わねばと反省する次第です。

その会長夫人からのお便りを発表しましょう。

1986.3.18, 親愛なる 村田さんへ。

OHAYO GOZAI MASU、貴方からのお便り大変嬉しく思います。皆さんからの数々のプレゼント、本当にありがとう。RONのお母さんが、世界中の人形のコレクションをしているのです。頂いた日本の人形は、そのコレクションケースの中に飾ってあります。

貴方から頂いた「JAPAN」という本を楽しく読んでいます。息子のマークにJAPANの大阪の事を、この本を見せながら話しています。

上の息子が今、大阪へ行っているからです。

私の教会は、セント・ルターで祝日を家族中、楽しみにしています。

貴クラブのメンバーにお尋ねしたところ、貴方は日本のカトリック教会で大変重要な方だそうですね、ローマ

千葉京葉LC 会長

L 村田 増 雄

教皇ヨハネパウロⅡ世に貴方が謁見、握手をしている写真、大切にしています。

私達と信じている事が同じだとは素晴らしいことです。

息子のサンに、貴方と千葉京葉LCの事を話して聞かせました。貴方は大変素晴らしい友人であり“WIKIKI-LCの私達は、あなたがたを知った事を大変名誉に思います。私達はパークショワー・レストランで大変楽しいパーティーの一日を過しました。貴方を初めメンバーは偉大な素晴らしい方々です。楽しい写真をありがとうございました。私達の大切な記念としてアルバムに加えました。

是非またお会いしたいです。その日の来るのを楽しみにしています。RONが云っています、「ありがとう、貴方と千葉京葉LCの全メンバーが下さった愛を感謝します。記念に頂いた盾は私のオフィスに何時も手に取れる様に飾ってあります」。

貴方の親切に対し、深く感謝申し上げます。

ARIGATOU

いつも健康でご活躍をお祈りしています。

RON AND MAIL

MIYASHIRO



ク ラ ブ ラ イ フ

20周年記念行事を振り返って

千葉エコーLC 会長

L 尾 形 祇 文



「20周年記念の年の会長に決まりましたよ」と言われてから4年、「チャーター・メンバーが応援するから大丈夫」と元気づけられつゝ資料集めに努力して来た。

昨年20周年記念式典準備委員会を組織、会合を頻繁に開催した。『チャーター・メンバー共々喜び合える行事を催し、大勢の皆様の御参加を頂き、個々の自覚とクラブの融和を図り、今後の奉仕活動と参加意識の向上に資そう』として検討したが、人員確保と経費に問題があり甲論乙駁したが、メンバーのドネーションが20周年のため特別にということで沢山寄せられ、大いに感激した。

前夜祭には大勢のメンバーが千葉の夜を楽しみ、また式典翌日はゴルフと成田山奥の院拝観、ポート・タワー見学等、大いにリラックスして頂いた。

メンバーは式典当日の運営のため、早朝から会場に向いて十分なコミュニケーションを計ることにしたが、時間が足りず、リハーサルもそこそこに本番となってしまう、担当役員も手落ちのないよう気配りはしていても心配事が多かったが、式典の進行につれ、落着をとりも

どした。アトラクションの芸能人も何とかまとめてくれ、多くの参加者から御褒めを頂いたが、閉会した途端にホッとしたあまり、御参加下さった皆様に御礼もそこそこに失礼してしまった。式典に500名近くの御参加を得て進行できたのも、各位の御協力とメンバーの努力のおかげと感謝している。我々の気付かなかった部分で御迷惑を御掛けしたのではと心配は残ったが、さすがライオンズマン、苦情を耳にしなかったのは主催者への思いやりと存じ、改めて御礼申しあげる。

周年行事をめぐっていろいろ論ぜられているけれども、自らのクラブの存在を改めて見直し、会員間の信頼と友情が更に強固になることを期待して今後に資したいと思う。25周年をめざして。

終りに当日御参加頂いた皆様に、改めて厚く御礼申しあげる次第です。



アクティビティーズ

鯉のぼり作戦

2 R 1 Z 船橋ポートLC

船橋市内の養護施設の一部や市立一宮少年自然の家から鯉のぼりが欲しいとの要望を聞いたことから新聞等のマスコミを通じて船橋市内及び周辺の市町に呼びかけ、メンバー全員が鯉のぼりの回収に奔走した結果約300匹の鯉のぼりが集まり、五月の空に一齐に泳ぎ始め、市民の目を楽しませました。この300匹の鯉の中から一宮少年自然の家などに11組を寄贈したものであります。

現在クラブの活性化という問題を、どのクラブも一様に抱えているのではないかと思います。単一クラブの中でマスコミ等を媒介として、メンバーの総意、メンバー全員の労力で鯉のぼりが上げられたことは、クラブの活性化とライオンズクラブの啓蒙の一助になったのではないかと思います。

来年は千匹の鯉のぼりを船橋の空に上げようとメンバー一同張り切っています。

(2 R PR情報委員 L高橋重成)





アクティビティーズ

ま
はち
な
し人

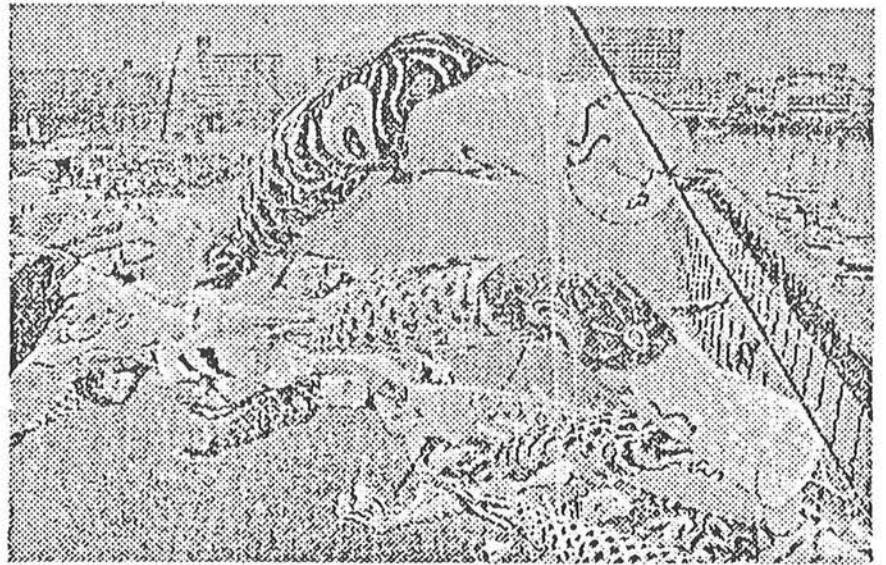
200匹のコイが舞う

船橋

船橋市の船橋漁港で二日、県内から集められた「お古」のコイのほりばかり二百匹が一斉に舞い上がり、港の空を鮮やかに彩ったII写真。

同港近くの船橋ポトライオンズクラブ（上野孝一会長）が、養護施設に寄付するために、不要なコイのほりを集めていたが、「どうせなら、一度は空に泳がせ、施設の子や港に来る外国船員にも見てもらおう」と、七日までの粋な企画に。

二百匹のワイヤロープ三本にくくり付けられたが、旧家の納屋で眠っていた五層もの手染めのコイのほりや、船橋漁協が「二百匹とは大漁」と特別出演



させた大漁旗も。壮観な眺めだが、風がやむと「メサシカシシヤモみたい」の声も。

（朝日新聞61年4月24日掲載）

外読売・毎日・東京・千葉日報・サンケイ各紙



アクティビティーズ

町内交通標識整備清掃 4R 2Z 山田町LC

3月24日(月)PR塔三基と町内通学路標識整備と清掃を行った。15名×2時間(労力奉仕30時間)

(4R PR情報委員 L椎名英夫)



音楽で結ぶ若人の集い

(新日本少年少女オーケストラ演奏会) 7R 1Z

上総一宮 LC



青少年健全育成事業として試みに新日本少年少女オーケストラ演奏会を4月29日開催いたしました。地域社会、学校関係者、報道機関から大きな期待を寄せられ、午前長生中学校体育館、午後は一宮中学校体育館と大変ハードなスケジュールでしたが、指揮者の石橋先生はじめ純白の制服に身を包んだ85名の団員が素晴らしい演奏を聞かせて下さいました。オーケストラの構成メンバーは、

7才の小学生から中学生の180名で組織されています。1978年には文部省の国際親善使節として音楽の都ウィーンの青少年オーケストラコンクールで世界第4位になり、名声を世界的なものにしました。皆様も御記憶と存じますが、習志野キャビネット、藤田ガバナーの年次大会アトラクションで演奏したのが、このオーケストラです。

シュトラウスの喜歌劇「こうもり」序曲から始まり、曲目が進む過程で解説、楽器紹介があり、なかでも1分間指揮者コーナーでは、ベートーヴェンの「運命」冒頭の強烈な部分を約1分間、生徒達に指揮をさせました。子供達は生まれて初めての体験に、とまどいと興奮をかくせず、生涯忘れられない思い出になったことでしょう。最後のシュトラウス父作曲の「ラデスキー行進曲」では観衆の皆さんが演奏に合わせて手拍子を送り、それは楽しい演奏会でした。ある中学校の校長先生は感動の涙の中に、このような素晴らしいものを聴けば、いじめや暴力などは無くなるでしょう、と言われたのが印象的でした。現在、子供達に感動が無さすぎると思います。感動を体験した子供達に非行少年はおりません。ライオンズクラブは子供達の将来のために、より健全育成事業を推進してゆかねばならないと思います。これは地域社会、地域住民の信頼を受ける近道であり、クラブの発展につながると思います。

地元の子供達に素晴らしい感動を与えてくださった石橋先生はじめ新日本少年少女オーケストラの皆様にご心から感謝し、この事業を継続してゆくつもりです。

(会長 L中川都弘)



地区ニュース編集を終えて

地区ニュース編集を橋口ガバナー・エレクトに依頼されてから今日まで、青野虎二PR情報委員長と林寛躬編集委員と共に努力してきました。

幸い青野委員長のお人柄とキャリアに支えられ、皆様から多くの玉稿を戴くことができ、何とか曲りなりに地区ニュースの体裁を保ち得たのはありがたいことでした。

最後の6号の推敲もやっと終わりました。毎号のことですが、今、時計は午前5時30分を指しています。今日で11日間この状態が続いています。私に、もっと推敲・

編集の能力があったらと、つくづく感じます。今日は印刷所から原稿を取りにきます。あとはゲラの校正、再校を残すだけです。約10日後には皆様の御手元に御届けできる筈です。

推敲に際して玉稿を汚したこともあろうかと思いますが、なにとぞ寛容の心をもちましてお恕し願いたいと思います。

一年間、本当にありがとうございました。

333-C地区ニュース編集委員

須藤節也(銚子LC)

-61.6.22 記-

お知らせ

：物故会員： 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

習志野LC 故L. 広田幸治 (昭和61年4月13日)

八日市場LC 故L. 野平竹雄 (昭和61年4月20日)

☆ 第8回レオフォーラム記念ACT報告

各クラブの皆様から頂きました使用済み切手は、レオクラブメンバーにて纏めまして(財)日本キリスト教海外医療協会へお送り致しました。(総計 155,353枚でした)ご協力ありがとうございました。

PR情報委員長：L青野虎二

PR情報委員：(L)今井喜美男,高橋重成,富山幸一

椎名英夫,廣部辰雄,庄司兼次郎

辻利兵衛

333地区ニュース編集委員 L林寛躬

” L須藤節也

昭和61年6月30日 印刷

昭和61年6月30日 発行

発行所 千葉市問屋町1番55号
シーオービル6F

ライオンズ国際協会 333-C地区

キャビネット事務局

印刷所 銚子市新生町1-49-1

㈱三友舎印刷所

TEL 0479-22-1810